

2012 年度中間期決算 会社説明会: 主な質疑応答

Q: 政策保有株式について、現在の削減目標(2012 年度末までに、2010 年度対比で簿価 1 兆円を削減)の達成見込みはどうか。また、来年度以降の運営についてはどのように考えているか

A: 政策保有株式の削減については最重要経営課題の一つとして取り組んでおり、最後の 1 億円、今年度最後の 1 日まで、徹底的に拘って削減を進める。

来年度以降の運営のあり方についても、次期中期経営計画における重要なテーマとして現在検討を重ねているところ。当該計画を発表する中で、皆さまにお示ししていきたい。

Q: 海外貸出金のスプレッドについての考え方を教えてほしい

A: 欧州債務危機を背景として海外での邦銀プレゼンスが向上するとともに、貸出スプレッドの上昇が見られるのは事実。但し、相対的に信用力の低い先向けの融資やプロジェクトファイナンスを積み上げてスプレッドを上昇させるのはみずほの戦略とは異なる。

また、単に交渉によりスプレッドを上げればよいという訳でもない。コアの非日系取引先に対し、貸出金利の引き上げ交渉はもちろん行うが、バランスシートを使わない証券ビジネス、プロダクツやトランザクション等の非金利収益も併せて獲得することにより、トータルで収益性を改善していくことが非常に重要と考えている。

Q: 海外非金利収支が増加しているが、具体的な内容について教えて欲しい

A: シンジケートローンのアレンジ手数料が多くを占めるが、トランザクション(資金決済)ビジネスに関する手数料も増えている。

海外シンジケートローン市場において強いプレゼンスを維持しており、人民元決済やカストディビジネスにまだまだ伸びる余地があることを考えれば、海外非金利収支は 2012 年度下期以降も堅調に推移すると見ている。

Q: 今後の中長期的な資本政策についてどう考えているか

A: まずは内部留保の蓄積を通じた自己資本充実によりバーゼル 3 規制をクリアすることが重要だが、その次の段階では、非金利収支の強化等も行いながら、自己資本比率と ROE (自己資本に対する収益の比率)水準のバランスを取っていく必要があると考えている。

また、配当政策については、当面は安定的な株主還元維持・実現に努めて参りたい。

Q: 実質ワンバンクがスタートしたが、企業文化に具体的な変化は生じているか

A: "One Mizuho" というサブスローガンを掲げてワンバンク化を推進しており、企業文化の変化に非常に強い手応えを感じている。

この"One Mizuho"という言葉には、単に組織が一つになるというだけでなく、No.1 の金融機関になる、お客さまにとってのオンリーワンの存在になる、といった複数の意味が込められている。現場の一人ひとりがこの意味を咀嚼し理解したうえで、お客さまによりよいサービスを提供するため、すなわち「サービス提供力 No.1」の金融機関になるため何が出来るのか、自発的に工夫し行動するようになってきている。

以上